

田富小だより

令和3年度
第3号
6月25日
田富小学校



第1回学校運営協議会開催！

学校運営協議会というのは、「学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律（地教法第47条の5）に基づいた仕組み」です（文部科学省HPより）。中央市では、田富南小が平成28年度より、文部科学省の「コミュニティー・スクール導入等促進事業」のモデル校として取り組みを始めました。そして、平成31（令和元）年度および令和2年度において、中央市の他の小中学校もこの学校運営協議会をスタートさせたのです。（*ちなみに、コミュニティー・スクールというのは、学校運営協議会を設置した学校のことを言います。）

田富小学校学校運営協議会は、昨年度、多くの成果をあげました。ひとつは、本校が学校経営の基軸のひとつとして取り組んでいる学校評価にそって、様々な意見をいただき、それを学校運営に反映させることができたことです。もうひとつは、「地域とともにある学校づくり」のひとつとして、既存の「子ども守り隊」の活動が大幅に広がったことです。春の交通安全週間の時、該当指導に立った私は、沿道に黄色いベストを身につけたたくさんの方々子ども達の登下校を見守って下さっている姿を目にし、その数の多さに驚いたのをよく覚えています。「こんなにたくさんの方々に見守られて登下校できる子ども達は幸せだなあ。」と素直に感じました。こういった大きな成果をあげてきたのが、昨年度の学校運営協議会であったのです。

昨年度同様、新型コロナウイルス感染症が蔓延している状況です。こういった状況下で「学校運営協議会」として学校・保護者・地域が協働し、どのように子ども達の豊かな成長を目指していくことができるのか、かなり難しい問題となりますが、委員さん方から次のようなご意見もいただきました。

会長 田中 正清	委員 戸田 忠雄	委員 小川 貴史
副会長 林兵仁郎	委員 内藤 和久	
委員 田中三枝子	委員 丹澤 博	
委員 甲田 雄強	委員 大沼 仁	

令和3年度田富小学校学校運営協議会委員の皆さん（敬称略）

「これまで継続的に取り組んできた学校評価の活動が、田富小の学校運営に十分活かされていて大変よいことだと思う。これからも継続的な取り組みをしてほしい。」「学校評価の到達目標については、多少、再考する部分があってもよいのではないか」「シルバー人材の活用について活発にしたい」などです。今年度、コロナ禍にあっても、学校運営協議会の活動が子ども達のために少しでも発展していければと思います。

学校は地域と交流する美術館だ！

さきほどの学校運営協議会の昨年度の成果のひとつとして「地域の方々の美術作品を学校に展示し、子ども達に観てもらおう」と昨年度、作品をお貸しいただきました。そして、5月いっぱいをもって新しい作品と交換をいたしました。それがここに紹介する作品です。様々な色の和紙を使って美に色鮮やかな植物を描いた望月さんの作品や布を使って立体的に工夫して表現した吊るし雛、源氏物語絵

巻や植物などを表現した佐野さんの作品など、地域の方々から素晴らしい作品をお借りすることができました。ぜひ、ご来校の際には鑑賞してみてください。校舎内は至る所が美術館です。図書室の前には、季節折々のおすすめの本を紹介する総合的なディスプレイが作られています（6月は天気の本とかえるの本を紹介しています）。先日、登校し





てきた5年生の男子が「先生、雲がすごい！」と教えてくれました。見上げてみると空一面のうろこ雲。初夏の朝にしてはめずらしい光景ですが、きっと図書室のこの本のディスプレイの鑑賞結果?かも知れません。自然は素晴らしい美術作品に溢れています。校舎内も美に満ち溢れていたなら、きっと子ども達の感性もいっしょに影響を受け、育っていくはずです。校舎北側にはスクールフェンスギャラリーと称する児童作品の紹介コーナーもあります。今年は、県道沿いの白いフェンスにも以前のように、児童作品を飾る計画です。

Withコロナの教育活動推進中！

①**田植え** 6月に入り、5年生は、総合的な学習で「米」をテーマに学習を始めました。その一つとして、例年お世話になっている名執義高さん、真理子さん御夫妻を中心にした数名のみなさんに指導をいただきながら、田植えをしました。どろんこになりながら、ヒノヒカリという品種をきれいに植えることができました。この学習のいいところは、苗を植えるだけにとどまらず、田んぼというものがどういう役割を果たしているのか、生物たちにとって田んぼ



の存在とはどんなものなのかなどを講義してくださるところです。となり田に目をやると、すでに田植えを終えて数日経過しているらしく、小さな生物がたくさんいました。オタマジャクシ、ヒル、アメンボ…と元気よく動いていました。子どもの頃にタイムスリップしたようで、何だか心がワクワクしました。身近な自然と親んできた我々の世代にはよくわかる感覚ではないでしょうか。現代っ子は自然と触れ合う機会も減ってきていると思います。メディアとの交流が多い現代っ

子にはとてもよい機会であったと思います。

②**一人一台端末** 多くの方々の興味は、GIGAスクール構想として配備された「一人一台端末」がどのように利用されているかということではないでしょうか。今回、高学年の利用状況を紹介したいと思います。右側の写真は児童一人一人が使う情報端末です。普段は、「充電保管庫」と呼ばれる箱のようなもの(下の写真)の中に格納され、1台1台にコードを接続して充電されるようになっています。授業の時は、ここから持ち出し、児童はその子用のIDとパスワードを使ってログインし、端末を使っていろんなことをします。インターネットを使って調べ学習をしたり、一人一人が作った成果物など(電子データであればそのまま、紙ベースのものであればカメラで撮影して)を共有ド



ライブとよばれる場所に保存し、目的に応じて閲覧したりします。例えば、児童の仕上げた図工の作品や体育のマット運動実技の画像や動画、面白いところでは、昨日の授業の板書(黒板に授業の内容が示されているもの)まであります。共有ドライブに保存されたこれらの画像や動画は授業の中で適切に利用されたり、欠席した児童が欠席した日の教科学習の板書を見て、勉強の参考にしたりすることもできるのです。また、学習ソフトの類もインストールされており、一つの単元(教科の中のひとつのまとまり)が終わった後、テストをする前に復習しながら自分の学習を振り返ることもできるようになっています。パソコンがあるから使

うというのはちょっと違って、このツールを如何に効果的に使ってこれまでの児童の学習をよりわかりやすくしていくのかということが大切になります。今の小学生が社会人として働く頃には、今よりもっと高度になった情報化社会が存在していることは間違いありません。そんな時代を自分の力でどのようにすれば生き抜いていけるのか、そういった力を備えていなければなりません。今は、その初期段階です。本校では低学年児童も使い始める準備ができ、少しずつ使用し始めています。田富小も“ギガ開き”をし、これから本格的に使っていくことになります。

